

1 地方創生推進交付金とは

■ 概要・目的

- ▶ 地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援
- ▶ KPIの設定とPDCAサイクル（有識者会議での検証を含む。）を組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援
- ▶ 地域再生法に基づく法律補助の交付金とし、安定的な制度・運営を確保

■ 対象事業のイメージ

先駆性のある取組や先駆的・優良事例の横展開を対象とし、官民協働、地域間連携、政策間連携、事業推進主体の形成などを要件とする。

■ 財源

対象事業費の1/2を国から地方公共団体へ交付

■ 期待される効果

先駆的な取組などを後押しすることにより、**地方における安定した雇用創出**、**地方への人の流れ**、**地方の担い手不足の解消**、**まちの活性化**などが期待できる。

2 本市の地方創生推進交付金事業の実施状況

■ 事業の名称

世界遺産に訪れるインバウンド観光客をメインターゲットとした「せとうち体験型観光アイランド拠点」の構築

■ 事業の概要

未利用地の旧海水浴場（市有地）である「がんね」のロケーションの評価が高く、せとうちDMOからも、同地に自然体験型の宿泊施設があれば、間違いなくインバウンド観光客を誘引できると断言されている。しかしながら、開発には多額の初期投資が見込まれることから、自ら開発行為を手掛ける事業者はいないのが現状である。

このため、本市の財政規模からは大きな投資である数億円程度の支援を行うことを覚悟の上で、インバウンド観光客へ強い訴求力がある、**魅力的な自然体験型の宿泊施設を自ら運営する前提の開発プラン**を提示の上で、**その具体化のための調査事業**を行う事業者を公募し、せとうちDMOを中心とする事業者が当該調査を行った。令和元年7月末にその結果が報告され、富裕層をターゲットにしたホテル整備による開発案が示され、本市において、その実行の可否を検討している段階である。

また、宿泊施設だけではなく、**本市における「島での過ごし方」**も用意できなければ、観光客が来訪する力強い流れが作り出せないため、**観光に関する新たな体験づくりや食づくりに関する取組**を推進する。なお、この「島での過ごし方」の取組内容は、平成30年度に市民参加型ワークショップ（約70名の市民・事業者が参加し、議論や具体的な取組内容を深めていく場を7回設定）を開催し、市民自らが発案し、関与していく取組として取りまとめたものである。

この事業とは別に、起業・商品開発等補助金制度（がんばりすと補助金）を運用し、事業者の創出拡大を図るとともに、PRの専門人材（地方創生参与）を活用し、島のブランドイメージや体験・特産品などの「商品」を市外に売り込んでいく。

※ 「島での過ごし方」コンテンツのイメージ（今年度開催予定のイベント資料からの抜粋）



■ 交付対象事業の経費

年度	位置付け	内容	予算額	実績額
2019年度	拠点施設の整備及び「島での過ごし方」コンテンツの磨き上げ・整備を行い、受入環境の整備に取り組む。	① 自然体験型の宿泊施設を前提とした開発プラン具体化のための調査事業委託料	10,000千円	10,000千円
		② 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの造成支援委託料	20,000千円	19,999千円
		③ 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの補助金	10,000千円	968千円
		①～③ 計	40,000千円	30,967千円
	交付済額		—	15,483千円
2020年度	拠点施設の整備とは別に、「島での過ごし方」コンテンツを完成させ、一部実施する。	① 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの造成支援委託料	14,750千円	
		② 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの補助金	9,000千円	
		①～② 計	23,750千円	
		交付済額	—	
2021年度	拠点施設の整備とは別に、「島での過ごし方」コンテンツの充実を図り、さらに選択肢を増やしていくことにより、コンテンツを運営する事業者の拡大を図る。	① 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの造成支援委託料	15,000千円	
		② 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの補助金	9,000千円	
		①～② 計	24,000千円	
		交付済額	—	
時点における3箇年度の予算額及び実績額			87,750千円	30,967千円
時点における3過年度の交付済額			—	15,483千円

※ 全額ソフト事業

※ 位置付け欄に記載のある「拠点施設の整備」は未定

※ 交付済額＝実績値×1/2（千円未満切捨て）

※ 2019年度の①の所管：企画振興課、その他の所管：交流観光課

■ KPI

項目	単位	開始 時点	2019年度 増加分	2020年度 増加分	2021年度 増加分	累計
① 本プロジェクトにおける総観光客数 (魅力的な自然体験型の宿泊施設及び「島での過ごし方」における総観光客数)	千人	0	1.75 <u>(0)</u>	32.25	28.53	62.53
② 本プロジェクトにおける観光消費額 (魅力的な自然体験型の宿泊施設及び「島での過ごし方」における観光消費額)	千円	0	6,250 <u>(0)</u>	142,750	101,199	250,199
③ 「島での過ごし方」コンテンツ作成数	個	0	3 <u>(0)</u>	12	5	20

※ 黒字の数値は目標値、下段の()内の朱書下線の数値は実績値

■ KPIの見直し

【未達成の理由】

KPI達成に向けて体験型コンテンツを展開していくためのプレイベント「えたじまものがたり博覧会」が、人との接触で新型コロナウイルス感染症の拡大を招く可能性があり、実施できなかったため、実績を挙げる事ができなかった。

【実績を踏まえた見直し】

2020年3月に、体験型コンテンツで提供可能なものに関し、プレイベントを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。

2021年2月下旬から3月上旬には、2019年度にプレイベントを中止した経緯から、新型コロナウイルス感染症に対応した形で、イベントをオンライン開催することとした。このイベントを経て、2021年度には対面でのイベントを開催することを目指す。

現時点では見込みの段階ではあるが、当該イベントの結果等による実績値、自然体験型の拠点施設の整備を実施するか否かにより、今後の見通しが異なってくる。特に、2020年度のイベントの結果は新型コロナウイルス感染症に左右されるところがあり、社会情勢に合わせて事業の見直しを図ることとする。2021年度の委託内容については、予算の範囲内で対面によるイベントを目指しつつも、オンラインによるイベントに切り替えることも想定しながら準備する。

■ 総括

拠点施設の整備を実施するか否かによって、KPIの①及び②には大きな影響が生じるが、依然として当該整備の実施は見込めていない。

また、KPIの③については、拠点施設の整備が進まない飛躍的な伸びが期待できない面があるが、「島での過ごし方」コンテンツ作成は必要なものであり、地道に取り組む。

■ 参考：2019年度の事業実績の詳細

① 自然体験型の宿泊施設を前提とした開発プラン具体化のための調査事業委託料

【内容】

魅力的な自然体験型の宿泊施設を自ら運営する前提の開発プランを提示の上で、その具体化のための調査事業を行う事業者を公募の上で選定し、次の一連の調査業務を一括で委託した。

- ▶ 開発可能性調査事業委託業務
開発プランの実行に関する必要な調査（経費や課題その他必要な条件等の明確化を盛り込む。）
- ▶ 報告書（開発可能性を判断するための検討資料）の作成

【委託先】

瀬戸内ブランドコーポレーション株式会社

【実績額】

10,000,000円

② 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの造成支援委託料

【内容】

市民参加による観光体験・食づくりを図るため、次の一連のコンテンツの造成支援に係る業務を一括で委託した。

- ▶ 観光地域づくり人材育成事業
セミナーの企画・運営、外部講師招聘
- ▶ 体験型観光の商品づくりとプラットフォームの構築
検討会議の開催、先進地視察企画・実施、造成した商品を提供するプレイベントの実施支援、商品販売用のホームページ制作
- ▶ 食の観光コンテンツ開発と普及に向けた機運づくり
検討会議の企画・運営、外部専門家招聘、PRとテストマーケティングを目的とした販売
- ▶ 魅力を発信する動画制作
検討会議の企画・運営、PR動画制作

【委託先】

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所

【実績額】

19,999,000円

③ 市民発案の「島での過ごし方」コンテンツの補助金

【内容】

コンテンツの実行を支援するため、コンテンツの造成、質的向上及び販売をしようとする個人・団体（8件）に対して、補助金を交付した。

【実績額】

968,000円